

平成24年度 民家野外博物館「川崎市立日本民家園」 目標と評価シート

■日本民家園の使命

日本民家園は、市民の文化・学術・教育の向上に寄与するため、つぎのを行います

1. 主に江戸時代の古民家を移築復原し、良好な状態で後世に伝えます
2. 古民家・伝統的生活文化にかかわる資料を調査収集し、展示・普及活動を行います
3. 日本を代表する民家博物館として、国内外に情報を発信します
4. 生涯学習やくつろぎの場として、地域に親しまれ必要とされる博物館をめざします

※本文各項の「対象使命」欄で太字になっているものが、業務に該当する使命。

■外部評価の目的

(2009.3日本民家園協議会資料より抜粋)

1. 日本民家園の使命を果たすために、園の充実発展に繋がる改善案を探す
2. 園の独りよがりな運営にならないよう、外部の方(利用者・有識者など)の客観的・率直・公平・多様な意見を聞く
3. 評価項目(年度当初案と結果)を公表することにより、広く日本民家園の業務を周知するとともに、実行性を高める
4. 評価を毎年継続実施する中で、前年度の評価や改善点を次年度以降に繋げる
5. 1～4を通じ、職員・協力者(市民)・関係業者のモチベーションを上げる

■評価

つぎの3段階とする。

A: 目標を充分達成し成果を上げている

B: 目標を概ね達成している

C: 目標を達成しておらず改善が必要である

■添付資料

1. 古民家保存修理工事事業計画
2. 民俗部門整備計画
3. 民俗部門展示・出版計画
4. 民家園叢書一覧及び計画
5. 大岡文庫関係出版物一覧及び計画
6. 総合防災設備整備計画
7. 事業報告

■目次

1. 民家野外博物館としての研究・展示・普及活動

(1) 文化財建造物・民具などの保存・整理・調査研究と補修の推進

(2) 展示及び教育普及活動の充実

2. 民家野外博物館としての運営・管理活動

(1) ミュージアム・マネジメントの確立

(2) 広報活動の強化と観光客の積極的誘致

(3) 利用者の利便性・快適性・安全性の向上

【収集・保存・整理】【調査研究】【情報発信】

【展示】【教育普及】

【総務】

【情報発信】

【管理】

1. 民家野外博物館としての研究・展示・普及活動

(1) 文化財建造物・民具などの保存・整理・調査研究と補修の推進

対象使命	1. 主に江戸時代の古民家を移築復原し、良好な状態で後世に伝えます。 2. 古民家・伝統的生活文化にかかわる資料を調査収集し、展示・普及活動を行います。	3. 日本を代表する民家博物館として、国内外に情報を発信します。 4. 生涯学習やくつろぎの場として、地域に親しまれ必要とされる博物館をめざします。
-------------	---	---

現状：東日本における江戸時代の古民家を中心に移築復原した。長期計画を立て、緊急度の高いものから補修工事を実施している(資料1)。日常的な維持管理としては、燻煙と清掃、巡回警備を実施している。収集資料については、民具の整理を企画展示と連動して行い、目録を刊行(資料2、3)、建築関連資料についても大岡實博士文庫の整理を進め、目録や民家園叢書の刊行を行っている(資料4、5)。また、総合防災施設設備事業(資料6)も進行中である。

実施目標	中期目標(3年、H25まで)	H24年度計画	H24年度事業実績	指標	今後の課題
①文化財建造物維持管理の推進	屋根補修工事推進。 その他補修工事実施。 保存修理における伝統技術継承。 燻煙と清掃の定期的実施。	菅原家・野原家屋根修理。 25年度修理棟・水車小屋予算要求。	菅原家・野原家屋根修理。 25年度岩澤・蚕影山・水車小屋予算獲得。	計画に対する達成度	文化財修理業者の育成。業者数の確保。文化財建造物及び園内環境を良好な状況で維持するため、専門的業務内容を複数名で検証、遂行できる体制の確立。
②収蔵資料整理の推進	企画展示に合わせた各民家収蔵資料整理。 大岡實博士文庫資料整理。	太田家・山下家・江向家住宅の収蔵資料整理。 大岡資料整理。	太田家・山下家・江向家資料、大岡資料整理実施。	計画に対する達成度	資料整理後の維持管理。
③総合的防災対応体制の整備	防災工事実施(消火設備・自火報)。 耐震診断6件、補強設計4件、補強工事2件実施。 関連部署との密接な連携。	防災工事。耐震診断(太田・山下)、補強設計(鈴木・三澤)、補強方法検討。鈴木崖補強。25年度予算・補助金手配。開園業務との調整。	防災工事、耐震診断(太田・山下)、鈴木家補強設計、三澤家補強基本設計、鈴木崖工事実施。25予算獲得(耐震は大幅減)。	計画に対する達成度	工事と開園業務との調整。 民家園の景観と折り合いのつく防災機器設置調整。 耐震基本方針の策定。
④調査・収集・研究の推進	所在地民俗調査。 大岡資料整理。 野外博物館団体・研究者等との交流推進(註1)。	山下家住宅現地聞き取り調査。 大岡資料整理。 野外博物館団体・研究者等との交流推進。	山下家・木小屋聞き取り調査、大岡資料調査実施。	計画に対する達成度	話者の高齢化と世代交代。 大岡資料については保管場所の整理。
⑤学芸活動の成果公表	民俗資料目録・大岡資料目録・民家園叢書の刊行。	太田家・山下家資料目録、叢書「民家園草創期の記憶5」刊行。 太田家焼損復旧記録映像HP公開準備。	太田家・山下家目録、叢書「民家園草創期の記憶5」刊行。 太田家映像HP公開。	計画に対する達成度	目録作成後の継続的データ管理。大岡資料については、整理済資料のうち目録未作成分の再確認。

外部評価 評定意見	屋根の補修工事等の文化財建造物の維持管理及び総合防災工事は、年度計画通りに進捗している。工事計画の策定に当たっては、工事の種類ごとに計画するばかりでなく、優先順位を考慮し、屋根補修工事、耐震補強工事等を同時に実施する等、合理的な施工を計画することも検討すべきである。文化財建造物である古民家の維持管理のための工事は、特殊性が強く、施工業者の確保が重要となる。設計・工事発注を的確に行うとともに、技術者の育成・交流等にも、民家園側から積極的に指導・働きかけを行うことが望まれる。有形民俗資料、建築史関係資料の整理、調査研究等の活動は、着実に実施されていると高く評価できる。ただし各民家に分散されている現在の有形民俗資料の収蔵状況は問題が多く、また、人的安全につながる民家の耐震性とも関連することから、なるべく早期の解決が強く望まれる。	A
----------------------	--	---

註1

長期目標として「民家園が民家保存継承に関するソフト・ハードの情報拠点として情報発信が可能となるよう、野外博物館団体・建築技能者・研究者・行政機関・民家所有者・民家愛好家などの支援・協力を得て情報拠点としてのネットワーク形成に寄与する」ことが挙げられる。

(2) 展示及び教育普及活動の充実

対象使命	1. 主に江戸時代の古民家を移築復原し、良好な状態で後世に伝えます。 2. 古民家・伝統的生活文化にかかわる資料を調査収集し、展示・普及活動を行います。		3. 日本を代表する民家博物館として、国内外に情報を発信します。 4. 生涯学習やくつろぎの場として、地域に親しまれ必要とされる博物館をめざします。		
現状：古民家を野外展示するとともに、民家の構造や暮らしについては常設展示室で、各古民家の暮らしについては企画展示室で順に紹介している(資料2、3)。古民家内では各地域の民具のほか、年中行事の展示を行っている。このほか、民家の補修工事や囲炉裏の火焚きなども展示の一環としてとらえ、作業風景が見られるよう工夫している。普及活動としては、学習講座・体験講座・お茶会・昔話等を実施しているほか(資料7、8)、学芸員実習や小学校の体験学習の受入も行っている。炉端の会、民具製作技術保存会は民家園の教育普及活動を支え、協力者会議を開催して事業運営の改善を進めている。					
実施目標	中期目標(3年、H25まで)	H24年度計画	H24年度事業実績	指標	今後の課題
①建築物等資料の公開展示の仕方の工夫	企画展示に合わせ民家内の展示整備。生活についての展示検討。説明板充実。	聞き取りに合わせ太田家内の民具再配置。解説板(間取図含む)設置検討。	太田家内展示民具整理。解説板(間取図含む)8棟設置。	計画に対する達成度	展示整備後の継続的な維持管理。
②企画展示の充実	各古民家及び建築用具をテーマとした企画展示開催。	太田家展・山下家展開催。大岡實博士関連展示準備。	太田家展・山下家展開催。大岡展準備。	企画展示室入室者数	企画展示室の本館への移動。
③各種講座の充実	古民家・伝統的生活文化に対する理解を深めるための市民向け講座の開催。	企画展に連動した講座、建築の見方に関する講座、各種体験講座の開催及び内容検討。受講者ニーズ把握。	企画展連動講座、建築関連講座、体験講座実施。アンケート実施。	受講者アンケート満足度(註2)	ボランティア以外の一般受講者の確保。体験講座については講師の高齢化が課題。
④建物解説・ガイドの充実	解説・ガイド活動の充実。	解説補助パネルを引き続き作成。ガイド内容魅力向上。	民家解説実施。ガイド内容充実のため解説補助パネル作成。	解説・ガイド参加者数(註3)	解説補助パネル拡充。ガイド向け研修の検討。
⑤催し物の充実	民家の魅力を引き出し、再来園のきっかけとなる催物の開催。	夜間公開・お茶会・歌舞伎・人形浄瑠璃・民具製作実演・昔話・月見・正月行事等の開催。旧所在地交流事業実施(太田家)。	夜間公開・お茶会・歌舞伎・人形浄瑠璃・民具製作実演・昔遊び・昔話・月見・正月行事等の開催。旧所在地交流事業実施(笠間市・南砺市)。	参加者数(註4) 無料入園日入園者数	内容を検討しながら継続。
⑥図書コーナー設置	利用者向け民家・民俗関連の図書コーナー設置。	原家1階に図書コーナーを開設。	所蔵図書を元に、市立図書館と連携して来園者用図書コーナーを開設。	計画に対する達成度	図書充実と閲覧コーナーの運営方法検証。

⑦伝統工芸館の充実活性化	藍染め体験の利用促進。 講座・展示の改善。 施設設備の補修・整備。	藍染め体験・展示のPR強化。 館内施設整備・補修。 アンケートの継続実施。	ミニ展示7回実施などPR努力。 藍甕周囲補修工事実施。	体験者数	PR方法の検討。	
⑧学校との連携の強化	体験学習・社会科見学の利用促進。 中・高・大学の利用促進。	体験学習・社会科見学の受入。 体験学習申込書の簡素化。 博物館実習の受入。	体験学習・社会科見学・博物館実習受入。 体験学習説明資料の充実。	見学校数、 体験実施校数	工事との調整。	
⑨市民協働による事業の展開と民家園改善の推進	民技会の活動支援。 催し物開催にともなう市民団体との連携強化。 協力者会議、協議会の開催による運営の改善推進。	民技会の活動支援。 市民団体協力による催し物実施。 新規団体検討。 協力者会議・協議会の開催。	民技会については外部からの依頼対応など支援を実施。 お茶会は新しい協力団体を開拓。 協力者会議3回開催。	計画に対する達成度	民技会40周年記念事業支援。	
⑩ボランティア団体の活動支援と育成	学習会等研修機会の提供。 ガイド等諸活動の支援。 自主性・多様性を持った活動の促進。	学習会等研修機会の提供。 ガイド等諸活動の支援。 ボランティア講座開催。 自主的運営の促進。	学習会・園外研修等研修機会提供。 ガイド等諸活動・広報チーム立ち上げ支援。 ボランティア講座開催。	床上公開棟数・利用者数、 炉端活動延人数	佐地家門の床上公開。 情報提供方法の改善。	

外部評価 評定意見	民家毎の調査、資料整理、報告書作成、企画展示の実施、民家展示の改善の流れがうまく機能し、着実に実施されている点は高く評価できる。また、講座・催し物等各種行事の実施状況も充実している。炉端の会(ボランティア団体)等との連携も密に行われている。民家園で活動する民具製作技術保存会の取り組みは、その技術資料が各地で活用されている等、無形の民俗技術の継承の面で高く評価される。学校向けの体験学習資料を作成した点は評価できる。なお昔の暮らしを学ぶ小学校3年生は、新任教員が受け持つ例が多いという学校側の事情も踏まえ、改訂の際は学校側と連携し、より使いやすいものとするのが望まれる。図書コーナーの開設は評価できる。今後継続的に充実させていくことが望まれる。解説補助パネルは、かつて作成したものの活用も含め、充実を目指してもらいたい。	A
--------------	--	---

- 註2 ①民家園講座「講座の内容はどうか?」の質問で、「非常に良かった」「良かった」「普通」「あまり良くなかった」の4項目のうち、「非常に良かった」「良かった」と回答した人の割合。
- 註3 ②体験講座「参加してどうか?」の質問で、「面白かった」「まあまあ」「つまらなかった」の3項目のうち、「面白かった」と回答した人の割合。
- 註4 民家解説・園内ガイド・団体ガイド(英語含む)利用者数。
- 事業報告(社会教育要覧)の教育普及事業一覧から講座・園内解説・学校体験・床上公開・民家園まつり・多摩区民祭を除いた事業の参加者数。

2. 民家野外博物館としての運営・管理活動

(1) ミュージアム・マネジメントの確立

対象使命	1. 主に江戸時代の古民家を移築復原し、良好な状態で後世に伝えます。 2. 古民家・伝統的生活文化にかかわる資料を調査収集し、展示・普及活動を行います。	3. 日本を代表する民家博物館として、国内外に情報を発信します。 4. 生涯学習やくつろぎの場として、地域に親しまれ必要とされる博物館をめざします。
------	---	---

現状: アンケートで来園者ニーズを把握するとともに、事業評価を実施し、運営の見直しを行っている。また、指定管理者制度導入に向け、仕様書・マニュアル等の整備を進めるとともに、円滑に引き継ぎを行うための環境整備を行っている。危機管理については、消防訓練を実施、危機管理マニュアルも一部作成している。人的な資質向上をめざして各種研修も実施している。また、年間パスポートの販売等、リピーター確保のため工夫を重ねている。

実施目標	中期目標(3年、H25まで)	H24年度計画	H24年度事業実績	指標	今後の課題	
①来園者ニーズの把握	アンケートの継続実施と分析結果の活用。 回答の公表方法の確立。	一般アンケート・炉端アンケートの実施分析。 回答として「よくある質問」をHPに掲載。	一般・炉端アンケート実施、協力者会議で分析。 「よくある質問」アップロード。	来園者アンケート満足度(註5)	アンケート実施方法の検討。 「よくある質問」の充実。	
②外部評価の継続と活用	事業評価制度の活用。	事業評価の継続実施。 市の総合計画(H26～28年度)に連動する民家園長期計画の検討。	年度評価に加え、次期中期目標を元に運営のあり方を諮問。 市総合計画に連動する民家園長期計画検討。	計画に対する達成度	市の次期総合計画に園の課題が盛り込まれるよう、関係部局との調整が必要。	
③効率的な運営と生田緑地の施設運営管理一体化	一体化による管理方法の確立。 指定管理移行時の業務の質確保。 日本民家園の統一性の維持。	H25年度移行に向けた準備、円滑な引継ぎ、業務の質確保。 民家園として統一性を維持する組織体制の確保。	統括業務を市とし、指定管理者に直接指示できる組織体制を構築することで園としての統一性確保。	計画に対する達成度	指定管理者制度導入に伴い、市と指定管理者の協働により目標達成を目指す必要がある。	
④危機管理体制の整備	危機管理マニュアルの整備。 防災(火災・地震)訓練の内容充実と継続的实施。	市民参加の訓練・文化財防火デー事業。防災蓄財確保。放送網の不備解消検討。指定管理者と職員向けマニュアル作成。	災害訓練4回・文化財防火デー事業実施。防災蓄財確保。関係者向け災害マニュアル作成。放送網不備解消をまちづくり局と検討。	計画に対する達成度	市と指定管理者の役割分担を明確にしたマニュアル整備と訓練の実施が急務。放送網も引き続き改善を目指す。	
⑤経済的な自立度	入園料など収入確保による安定的運営(目標指標 25%)。	収入の確保。 支出経費の見直しによる安定的運営の実施(註6)。	指数35.8%。	歳出に占める歳入の割合(註7)	招待券利用増による歳入減が見込まれるため、新たな客層の開拓に向け工夫が必要。	
⑥組織と職員の資質向上	園内の情報共有化。 専門職の長期確保。(註8) 職員の資質向上。	園内情報共有化の推進。講座・解説への参加や近隣民家園の視察。 専門職の長期確保に向けた体制整備。	園内情報共有化推進。講座・解説参加・近隣民家園視察実施。 専門職長期確保に向けた体制整備を教育委員会内で検討。	計画に対する達成度	専門職の長期確保に向けた体制整備。特に民俗部門の強化。	
⑦来園者確保	H23年度 100,000人。 H24年度 90,000人。 H25年度 90,000人。 (工事による部分閉園のため)	H24年度90000人(藤子ミュージアム来館者への周知・割引、科学館オープン)。 年パス利用者確保(3.5%)。市博物館共通利用券使用促進。学校向け優待券継続。	入園者数123,453人。 部分閉園に対応し有料入園者に招待券付きポストカード配布。 年パスは2.6%。学校向け優待券継続。	入園者数、ハポースポット売上枚数・入園者数(註9)	緑地内の他施設、特に藤子ミュージアム利用者の誘致が課題。	
外部評価 評定意見	具体的な想定による防災訓練を、ボランティアスタッフの参加も得て定期的実施している点は評価できる。今後管理体制の大幅な変更があることから、危機管理についてよく検討することが求められる。工事のための部分閉園等があったものの、経営指標については、設定した目標が達成された。これは近隣の新施設の効果に負うところも大きく、今後もこれらとの連携に努めることが求められる。指定管理者制度一部導入を控えた年度で、本格的な準備作業も順調に実施された。今後も引き続き民家園の特性を活かした質の高い活動が維持されるよう、新体制への円滑な移行に努めることが望まれる。職員の資質向上に向けた取り組みがなされている点は評価できる。一方、専門職(学芸員)のあり方については、特に民俗部門において課題が認められるので、博物館に適した職制・人員配置の改善が求められる。					A

- 註5 「全体の印象は？」の質問で、「よかった」「つまらない」「どちらとも言えない」の3項目のうち、「よかった」と回答した人の割合。
- 註6 「民家園の魅力を高める」ことを追求するのが入園者を増やす一番の方法であり、協力者会議・協議会などで議論を重ね実現化を模索している。
- 註7 歳出＝経常経費の決算額(修理工事・総合防災など特殊経費、人件費を除く)、歳入＝入園料・受講料収入など(国庫補助などを除く)
- 註8 専門職の配置のあり方の検討が必須である。
- 註9 入園者数は指標の一つであるが、入園者増だけで良いのではなく、熱心な入園者を評価する指標を検討する。

(2) 広報活動の強化と観光客の積極的誘致

対象使命	1. 主に江戸時代の古民家を移築復原し、良好な状態で後世に伝えます。 2. 古民家・伝統的生活文化にかかわる資料を調査収集し、展示・普及活動を行います。	3. 日本を代表する民家博物館として、国内外に情報を発信します。 4. 生涯学習やくつろぎの場として、地域に親しまれ必要とされる博物館をめざします。
-------------	---	---

現状：ホームページの充実に力を入れているほか、各種広報物を制作し、市の関係機関や観光協会連合会とも連携しながら配布している。生田3館では広報についても連携を深め、共通の施設案内パンフや催物案内を発行している。また外国人誘致にも力を入れ、リーフレットの多言語化、英語版ホームページの拡充を進め、英語ガイドも実施している。

実施目標	中期目標(3年、H25まで)	H24年度計画	H24年度事業実績	指標	今後の課題
①民家園の魅力発信	広報予算費の確保。 インターネットを利用した情報発信の推進。	HPの更新改訂(HPアクセス数目標10万件)、新HP(H25年度より運用)移行準備。 CM放映(アゼリア)。車内ポスター掲出。	アクセス数日本語122,295。 新川崎市HP移行作業実施。 アゼリア展示。CM放映。市バスポスター掲出。	HPアクセス数	民間のノウハウを活かした広報活動の充実。
②外国人向け広報とサービスの充実	簡易版外国語リーフレットのHPアップ。 羽田国際空港へのPR。 英語ガイド充実。	ドイツ語リーフレット検討。 簡易版外国語リーフレットのHPアップ(2か国語)。羽田空港へのPR。	英語HPアクセス数6,853。 タカログ語リーフレット手刷り版刊行(日本語を含め9か国語に)。日本政府観光局パリ事務所へリーフレット発送。	外国人入園者数 英語版HPアクセス数	民間のノウハウを活かした広報活動の充実。
③観光客の積極的誘致	経済局商業観光課・観光協会との連携。 宿泊施設への広報物送付。 観光業界へのアプローチ。	経済労働局商業観光課・観光協会との連携。外国客宿泊施設への広報物送付。ハングル・中国語圏観光客誘致検討。	経済労働局商業観光課・観光協会の依頼に対応。 商業観光課主催の会議に出席。	計画に対する達成度	民間のノウハウを活かした広報活動の充実。
④生田緑地の情報発信	生田緑地共通広報の継続。 指定管理体制移行時の情報発信のしくみ作りと効果的運用。	生田緑地新HP支援。 生田緑地共通広報の実施。 区民祭等での関係機関との連携。 ビジターセンターへの協力。	藤子スタンプラリー実施。 施設間割引試行。 生田緑地HP・リーフレット協力。 ビジターセンターへ情報提供。	計画に対する達成度	民間のノウハウを活かした広報活動の充実。

外部評価 評定意見	園としての取り組みは評価できるが、広報は他機関との連携が重要になることから、より効果的な広報が実現するよう、働きかけを継続することが求められる。今後は指定管理者のノウハウを活用し更なる広報の充実が期待される。インターネットは重要な広報手段の一つであるが、市のホームページのリニューアルの影響により、一部閲覧しづらい部分があったので、問題の解消に向けた調整が望まれる。外国人向け案内リーフレットの充実は高く評価できる。世界的に影響のある有力紙ニューヨークタイムズ(電子版)において、民家園が記事で紹介されたのは、外国語による広報の成果として評価できる。	B
----------------------	---	----------

(3) 利用者の利便性・快適性・安全性の向上

対象使命	<p>1. 主に江戸時代の古民家を移築復原し、良好な状態で後世に伝えます。</p> <p>2. 古民家・伝統的生活文化にかかわる資料を調査収集し、展示・普及活動を行います。</p>	<p>3. 日本を代表する民家博物館として、国内外に情報を発信します。</p> <p>4. 生涯学習やくつろぎの場として、地域に親しまれ必要とされる博物館をめざします。</p>
-------------	--	--

現状： 来園者サービス施設として、救護室や授乳スペース等を整備、ショップではオリジナルグッズも販売している。敷地内の環境は展示の一環として整備を進め、案内板の補修・増設、バリアフリー工事等を行っている。

実施目標	中期目標(3年、H25まで)	H24年度計画	H24年度事業実績	指標	今後の課題
①来園者サービス施設の整備・オリジナルグッズの開発	オリジナルグッズ制作と販売促進 休憩スペースの確保検討	ポストカード作成	ポストカード8種作成、部分閉園への対応として古民家1棟の床上を昼食場所に提供	計画に対する達成度	民間のノウハウを活かしたグッズ開発・サービス提供
②敷地内環境の整備	植栽管理 園内案内版の作成・修繕	植栽管理、園内案内版の作成・修繕(各棟解説板については1-(2)-①参照)、指定管理者への管理指導方法検討	植栽管理実施 園内案内版の作成・修繕	計画に対する達成度	指定管理者制度導入後の植栽管理の維持
③バリアフリーの推進	敷居スロープの継続的製作 園路手すり整備検討	敷居スロープの仕様再考	敷居スロープの仕様を検討したが、予算・重量・安全性等で改善案できず手すりは総合防災工事後の実施を決定	計画に対する達成度	現在の金属製スロープは不評であり、引き続き仕様検討
④窓口(券売・インフォメーション)業務の質向上	電話応対等の向上 研修(接遇・園概要)実施	新入職員・警備清掃員の研修(接遇・園概要)実施、マニュアル(窓口・電話)の見直しと改訂、案内文英語版拡充	新入職員・警備清掃員への概要研修実施、券売・電話応対マニュアル改訂版作成、窓口用英語案内文拡充	計画に対する達成度	新しく入る職員への研修の実施 民間活用効果による窓口業務の向上

外部評価 評定意見	<p>来園者サービスについては、工事に対応した受付業務の向上、床上での昼食場所提供開始をはじめ、評価できる点もある。バリアフリーについては、敷居スロープの設置を開始していることは評価されるが、機能性と民家の景観になじむ材質・構造の設備であることの均衡を図りつつ、増設することが求められる。植栽は、庭先の利用形態の再現を含め、暮らしの中で利用されてきた草木を選ぶなど、伝統的な暮らしの理解につながるものとして管理されることが望ましい。職員の接遇研修実施を含め、利用者が快適に民家園を利用できるようにするための取り組みの継続が求められる。</p>	A
----------------------	---	---

■各種統計

		平成24年度	平成23年度	平成22年度
1	企画展示室入室者数 ※センサー数÷2	29,214人	24,777人	30,135人
2	企画展示解説回数(人数)	10回(65人)	10回(42人)	10回(73人)
3	受講者アンケートによる満足度	①－%②97%	①95%②93%	①96% ②89%
4	解説・ガイド回数(参加者数)	450回(4,600人)	429回(4,839人)	402回(4,453人)
	内訳1) 民家解説	9回(300人)	10回(168人)	10回(197人)
	内訳2) 園内ガイド	300回(1,564人)	292回(1,874人)	300回(2,313人)
	内訳3) 団体ガイド ※英語ガイド含む	141回(2,877人)	127回(2,797人)	92回(1,943人)
5	催し物参加者数	9,487人	8,318人	9,050人
6	無料入園日入園者数	10,782人	6,195人	8,745人
7	ハンカチ染め他体験人数	1,897人	1,640人	1,375人
8	見学学校数 ※幼～高校、学校体験除く	115校	107校	109校
9	学校体験実施校数	75校(市立68、市内私立0、市外7)	83校(市立74、市内私立1、市外8)	75校
10	床上公開棟数	1,028棟	1,060棟	962棟
11	床上公開利用者人数 ※団体除く	130,372人	153,877人	129,429人
12	床上公開利用団体数	647団体	773団体	646団体
13	炉端活動延人数 ※炉端の会	3,985人	4,347人	3,743人
14	来園者アンケート満足度	95.0%	95.6%	91.6%
15	歳出に対する歳入の割合 ※()内は特殊経費・国庫補助金を含む場合	35.8%(26.5%)	32.1%(36.8%)	37.4%(32.8%)
16	総入園者数	123,453人	106,323人	111,457人
17	年間パスポート売上枚数	848枚	931枚	982枚
18	年間パスポート売上枚数内訳 1000円券/600円券	707枚/141枚	728枚/203枚	787枚/195枚
19	年間パスポート入園者数 /平均利用回数/割合	3,163人/3.72回/2.6%	3,209人/3.44回/3.0%	3,512人/3.58回
	内訳)年間パスポート入園者 1000円券/600円券	2,804人/359人	2,670人/539人	2,922人/590人
20	園HPアクセス数	122,295件	104,347件	102,233件
21	外国人入園者数	2,931人	1,751人	3,073人
22	園英語HPへのアクセス数	6,853件	8,103件	9,707件
23	市政だより掲載依頼件数(内掲載件数)	204件(43件)	153件(22件)	109件(57件)

※招待券付ポストカード 23,306枚配布(平成24年9月4日～平成25年3月10日)

No	指定区分	建造物名称	材	修理履歴	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	32～ 年度
1	重要文化財	旧伊藤家住宅	茅	S40移、S50屋(部分)、S54部、S62屋(部分・棟)、H3屋(部)、H7屋(部)、H13屋・部、H22屋(部)							耐+葺替	
2	重要文化財	旧佐々木家住宅	茅	S42移、S48屋(部・庇)S55屋(部・棟)・部、S59部、S63屋(部・棟)、H2屋(庇)、H3屋(庇)H6部(不陸補正)、H9屋(部・棟)、H21屋・部								差茅
3	重要文化財	旧江向家住宅	茅	S42移、S48屋(棟)、S51屋(棟・窓屋根)、S54災、S55屋(部)、S56屋(部・窓)、S58屋・部、H5屋(部・棟)、S8屋(窓)、H10屋・部、H21屋(部)	部分差茅					葺替		
4	重要文化財	旧北村家住宅	茅	S42移、S54災(棟)、S60屋・部、H6屋(部)・部、H11屋(部)、H12屋(部)、H22屋(部)								耐+葺替
5	重要文化財	旧作田家住宅	茅	S43移、S52屋(棟)、S54災、S59屋・部、H6屋(部)・部、H12屋(部)						耐+葺替		
6	重要文化財	旧太田家住宅	茅	S44移、S52(部・棟)、S57屋・部、H3～H4焼損復旧、H8屋(部)、H12屋(部)、H17屋(部)				耐+葺替				
7	重要文化財	旧工藤家住宅	茅	S45～S46移、S56屋・部、H3屋(部)、H6屋(谷)、H8屋(谷)、H11屋(部)・H21屋(部)、H23屋「便所」JS45新築、S59屋、H5屋(部)		便所葺替					差茅	
8	県指定重要文化財	旧三澤家住宅	板	S46移、S51、S55、H4屋、H17屋		耐+部分葺替						
9	県指定重要文化財	旧山田家住宅	茅	S60移、H5屋(部)、H17屋「便所」JS60新築、H8屋							差茅+便所差茅	
10	県指定重要文化財	旧野原家住宅	茅	S41移、S56屋、H7屋、H17屋(部)、H24屋(部)								葺替
11	県指定重要文化財	旧鈴木家住宅	茅	S45移、S59屋、H4屋(部)、H21屋	耐	部分差茅						葺替
12	県指定重要文化財	旧広瀬家住宅	茅	S43移、S54、S59、H5屋、H19屋(部)			葺替					
13	県指定重要文化財	旧岩澤家住宅	茅	H1移、H7屋(部)H18屋(部)	部分葺替							
14	県指定重要文化財	旧菅原家住宅	茅	S58移、H6屋(部)、H14屋(部)、H24屋								差茅
15	県指定重要文化財	旧清宮家住宅	茅	S40移、S48、51屋(部)、S58屋、H5屋(部)、H18屋(部)					葺替			
16	市指定	蚕影山祠堂	茅	S44移、S51S60屋、H6屋(部)	葺替							
17	市指定	水車小屋	茅	S56移、H6屋(部)、H22屋(部)	水車修理			葺替				
18	市指定	木小屋	杉皮	H5移、H23屋								葺替
19	県指定重要文化財	井岡家住宅	瓦	S61移					耐+葺替			
20	県指定重要文化財	山下家住宅	茅	S45移、H8屋、H23屋(部)			耐+葺替					
21	市指定	沖永良部の高倉	茅	S44移、H15屋、H22屋(部)					差茅			
22	市指定	船頭小屋	杉皮	S49移築、S60屋、H12屋、H24屋								葺替
23	市指定	佐地家共待	瓦	S62移、H8部								
24	重要有形民俗文化財	船越の舞台	瓦	S47移、S58屋(部)、H8屋、H10屋(部)、H24屋(部)						耐		
25	市指定	原家	瓦	H2移、H3部、H15部								
		※修理履歴について※主に屋根に係わる修理履歴のみ記載。小規模自費修理は除く。屋(部)=屋根部分修理を表わす。屋(部)・部=屋根部分修理とその他の部分修理を表わす。			耐は耐震補強工事を表わす 耐震診断の実施及び結果により変更の可能性がある							

日本民家園民俗部門整備計画

1. 現状

(1)整理・展示

平成15年度(2003)より資料整理・目録作成・企画展示と、3つの作業を連動させて進めている。同時に、民家の旧所蔵者を訪ねて衣食住・生業等について聞き取りを行い、調査報告を目録に合冊して刊行した。さらに、目録作成時の電子データを活用し、資料のデータベース化も進めている。

(2)保存

当園の収蔵庫は所蔵点数に比べて狭く、資料の大多数は古民家の屋根裏等に保管されている。保存環境は良好とはいえないが、改善を重ね、資料を直置きしないよう棚を設け、防塵用のクロスで覆う作業を進めている。また、清掃の委託範囲も屋根裏に広げ、ボランティアとも協同して清浄に保つよう工夫を重ねている。収蔵庫については平成17年度(2005)に酸化プロピレンによる全室燻蒸を行ったあと、新たに収蔵する資料については二酸化炭素ガスにより殺虫処理を行っている。また棚を増設して収容力を高め、同時に耐震補強も行った。

(3)収集

収蔵スペースがないため、現在積極的な収集活動は行っていない。

2. 基本方針

(1)整理・展示

民家を主とし、民具の展示はそこでの生活を知るための補助と位置づける。このため民家内には、その民家の資料を、その資料が本来あるべき位置に展示することを基本とする。旧来の展示(民家を展示スペースととらえたテーマ展示)が混在している棟があるが、企画展示に合わせて整備する。

(2)保存

野外博物館という特性をよく理解し、民家で本来行われていたメンテナンス方法を取り入れながら、資料の保存環境の向上に努める。

(3)収集

川崎市には、地域の資料全般を収集対象とする博物館として市民ミュージアムがある。このため当園は古民家の博物館としての性格を活かし、建築に関わる資料を収集対象とする。

この他、各古民家の展示充実を図るため、旧所蔵者の資料は上記以外のものについても収集対象とする。

3. 今後の計画

(1)整理・展示

引き続き年に2棟(合掌民家を扱う年度は1棟)のペースで、資料整理・目録作成を進め、企画展示を開催する。同時に聞き取りを進め、各家ごとの生活習慣を記録に残す。古民家の旧所蔵者は急速に高齢化が進んでいるため、この業務は優先的に進めていく。

(2)保存

民家の屋根裏に保存されている資料の保存環境を向上させていく。具体的には、直置きされている資料をできるだけコンテナに収めて棚に収納し、清掃しやすい環境を作っていく。

(3)収集

収蔵スペースの都合上積極的な収集活動は行えないが、古民家の旧所蔵者から話が合った場合は対応する。また、建築関係の資料については、作業工程を理解する上でまとまりのあるものについては収集していく。

日本民家園民俗部門展示出版計画

年度		タイトル	刊行物
15年度	前期	展示室整備	—
	後期	「芝居の立つ町」—船越の舞台のふるさと—	『日本民家園収蔵品目録1 旧船越の舞台』
16年度	前期	「家の神々」—作田家の守り札—	『日本民家園収蔵品目録2 旧作田家住宅』
	後期	「蚕影山」—養蚕信仰の世界—	『日本民家園収蔵品目録3 船頭小屋・蚕影山祠堂』
17年度	前期	「伊那の薬屋」—信州・三澤家のくらし—	『日本民家園収蔵品目録4 旧三澤家住宅』
	後期	「清宮家」—登戸に生きる—	『日本民家園収蔵品目録5 旧清宮家住宅』
18年度	前期	「山と風」—甲州・広瀬家のくらし—	『日本民家園収蔵品目録6 旧広瀬家住宅』
	後期	「雪に暮らす」—川崎で出会う北国—	『日本民家園収蔵品目録7 旧菅原家住宅』
19年度	前期	「むかしむかしかわさきで」—民家園のはじまり・重文伊藤家住宅—	『日本民家園収蔵品目録8 旧伊藤家住宅』
	後期	「千曲川のほとりで」—佐久の染物屋・佐々木家—	『日本民家園収蔵品目録9 旧佐々木家住宅』
20年度	前期	「川崎の近代和風建築」—旧原家住宅—	『日本民家園収蔵品目録10 旧原家住宅』
	後期	「南部曲屋」—重文・工藤家住宅の暮らし—	『日本民家園収蔵品目録11 旧工藤家住宅』
21年度	前期	「貞享四年」—年号のある民家・重文北村家住宅—	『日本民家園収蔵品目録12 旧北村家住宅』
	後期	「宿場の家」—奥州街道・鈴木家—	『日本民家園収蔵品目録13 旧鈴木家住宅』
22年度	前期	「登戸の左官」	—
	後期	「合掌造り」—野原家の暮らし—	『日本民家園収蔵品目録14 旧野原家住宅』
23年度	前期	「神奈川の村」—愛甲郡清川村・岩澤家—	『日本民家園収蔵品目録15 旧岩澤家住宅』
	後期	「奈良の町屋」—旧井岡家住宅—	『日本民家園収蔵品目録16 旧井岡家住宅』
24年度	前期	「常陸の民家」—旧太田家住宅—	『日本民家園収蔵品目録17 旧太田家住宅』
	後期	「白川の郷」—旧山下家住宅—	『日本民家園収蔵品目録18 旧山下家住宅』
25年度	前期	「建築史家・大岡貫の建築」※建築部門で担当	※出版物については資料5参照
	後期	「五箇山」—旧江向家住宅—	『日本民家園収蔵品目録19 旧江向家住宅』
26年度	前期	「大工の道具」	—
	後期	「ダムに沈んだ村」—旧山田家住宅—	『日本民家園収蔵品目録20 旧山田家住宅』
27年度	前期	「鶯職の道具・屋根職の道具」	—
	後期	東日本の養蚕用具	『日本民家園収蔵品目録21 別刊 佐地家供待・水車小屋・高倉・木小屋調査報告』

民家園叢書一覧及び計画

日本民家園叢書1	『日本古建築の特質・日本の塔』 関口欣也・濱島正士	平成10年9月
日本民家園叢書2	『日本の仏堂・桂離宮とその文化的背景』 鈴木嘉吉・斎藤英俊	平成13年3月
日本民家園叢書3	『多摩丘陵の農家 1955年細山 -日本民家園の発端-』 関口欣也	平成15年3月
日本民家園叢書4	『日本民家園の雪囲い』 監修/上野勝久・野呂瀬正男 編集/大野敏・小坂広志・砂川康子・増淵	平成15年3月
日本民家園叢書5	『土蔵の屋根修理を通してみた茅葺の地域性 川崎市麻生区飯草家土蔵の事例から』 大野敏	平成17年3月
日本民家園叢書6	『日本民家園草創期の記憶 -旧三澤家住宅・旧工藤家住宅-』 野呂瀬正男	平成18年3月
日本民家園叢書7	『日本民家園草創期の記憶2 -沖永良部島の高倉・蚕影山祠堂・旧山下家住宅-』 野呂瀬正男	平成18年12月
日本民家園叢書8	『日本民家園草創期の記憶3 -旧鈴木家住宅・旧船越の舞台-』 野呂瀬正男・田代勉・小坂	平成20年3月
日本民家園叢書9	『日本民家園草創期の記憶4 -旧井岡家住宅・旧佐地家の門侍・水車小屋-』 野呂瀬正男	平成22年3月
日本民家園叢書10	『民家は何の木で出来ているか』 中尾七重・布谷知夫	平成23年3月
日本民家園叢書11	『日本民家園草創期の記憶5 -旧山田家住宅・旧菅原家住宅-』 野呂瀬正男	平成25年3月

大岡文庫関係出版物一覧及び計画

大岡文庫目録	『日本民家園大岡文庫蔵書目録』	平成7年3月
大岡文庫目録	『大岡實博士文庫写真資料目録Ⅰ』	平成10年3月
大岡文庫目録	『大岡實博士文庫写真資料目録Ⅱ 図面資料及び摺拓本資料目録』	平成12年3月
大岡文庫目録	『大岡實博士文庫書類資料目録Ⅰ』	平成14年3月
大岡文庫目録	『大岡實博士文庫書類資料目録Ⅱ(新築設計関連資料)』	平成21年3月
大岡文庫目録	『大岡實博士文庫原稿・調査ノート資料目録Ⅰ』	平成15年3月
大岡展開連出版物	『建築史家・大岡實の建築』	平成25年7月
大岡文庫目録	『大岡實博士文庫原稿・調査ノート資料目録Ⅱ』	平成26年
大岡文庫目録	『大岡實博士文庫書類資料目録Ⅱ(大学関連)』	(未定)
大岡文庫目録	『大岡實博士文庫写真資料目録Ⅲ(プリント写真)』	(未定)

日本民家園総合防災整備事業

H25.4.1

<p>1 目的:文化財建造物を火災の被災から予防又は最小限に防護するため。また大地震時に来園者の安全をはかるため。</p> <p>2 理由:</p> <p>(1)開園45年を超え、消防施設の著しい老朽化と建造物の位置する高低差等から二件以上の建造物への消火能力に欠けること。</p> <p>(2)開園以来、水道配管の取り替え等を行っていないことに伴う老朽化、移築毎の配管の接続等から漏水事故が続いていること。</p> <p>(3)職員の削減、管理面積の規模等から、旧式の防災設備では消火や入園者の避難誘導等への的確な対応が難しいこと。</p> <p>(4)三澤家水車小屋間の園路改修・鈴木家裏崖補強を行なった。</p> <p>(5)古民家の耐震性能を検討し必要な場合は耐震補強工事を施す。鈴木家・三澤家・太田家・山下家について基礎診断をした結果、耐震補強が必要である。また、その他の古民家も予備診断の結果必要なものは基礎診断を実施する予定である。</p> <p>(6)工事については国または県より補助金が受けられる場合がある。</p>									
年 度		20	21	22	23	24	25	26	備考
防災	水道設備 自火報等	調査・基本 設計	実施設計	貯水槽	消火配管	消火配管 監視装置	監視装置・ 自火報	ポンプ設置 自火報	27年度で整 備完了予定
	園路・崖改修			三澤水車小 屋園路改修		鈴木崖補強 工事			
耐震	①=基礎診 断 ②=設計 ③=工事			該当棟の予 備診断	①鈴木家・ 三澤家	①太田家・ 山下家診断 ②三澤家基 本・②鈴木 家実施	③鈴木家 ②三澤家 耐震委員会	②2棟 ③1棟	以後、順次 実施

事業評価シート 資料7 日本民家園 平成24年度事業報告

展示

平成25年6月5日現在

事業名		日程	会場	内容等
企画 展示	「奈良の町屋」	-5/27	山下家2階	旧井岡家住宅をテーマとした展示 展示解説月1回
	「常陸の民家」	7/1-11/4		旧太田家住宅をテーマとした展示 展示解説月1回
	「白川の郷」	1/4-5/26		旧山下家住宅をテーマとした展示 展示解説月1回
常設 展示	文化財建造物展示	通年	園内	移築・復原した古民家等25件
	本館展示		本館展示室	民家及び民家の生活に関する展示
	石造物展示		園内	園路沿い 道祖神・庚申塔・馬頭観音等
	民俗資料展示		各古民家	生活用具・農具等
展 行 事	年中行事展示	毎月	北村・清宮・原	節句雛・田植え祝い・盆棚・小正月飾り等古民家の年中行事を展示
	雪囲い	1/20-3/10	山田家	雪と寒さを防ぐ雪囲いを再現
工 芸 館	藍T	4/18-5/29	伝統工芸館	型染め、絞り染めによる藍染めTシャツの展示
	干支	12/5-1/22		講座受講者と工芸館スタッフによる型染め作品の展示
	講座作品	8/1-12/2、12/18-1/22		

教育普及活動

参加人数

民 家 園 講 座	300歳の民家	6/9・16	原家・園内	外山明彦(園職員)	11人
	関東の民家	7/7・14		大野敏(横浜国大准教授)、渋谷卓男・根本佐智子(園職員)	22人
	日本とアジアの多様な茅葺き	12/1・8		日塔和彦(文化財建築技師)	17人
	白川郷	2/16・23		大野敏(横浜国大准教授)、渋谷卓男(園職員)	26人
ボランティア講座		1/12-2/2	原家ほか	新規会員向け、畑山拓登・外山明彦・田村央貴他園職員	33人
体 験 講 座	わら細工	5月、11月、12月	原家、作田家	ぞうり、かましき、しめ縄 民具製作技術保存会	27人
	竹細工	4月、5月		六つ目かご、菱四つ目かご 民具製作技術保存会	46人
	はた織り	6月、11月		裂き織り、綿の実から糸まで(糸紡ぎ) 民具製作技術保存会	29人
	親子体験	7月、8月		あしなか、ガリガリ、簡易機 民具製作技術保存会	48人
藍 染	しぼり染め	4月、10月、2月	伝統工芸館	初級(2回連続×2回)、中級(2回連続)	55人
	型染め	7月、9月、12月		初級、中級、干支(各2回連続)	65人
特 別 公	夜の民家園 ※開園時間延長	4/14・15、10/13・14	宿場・信越	昔話、落語、夜なべ仕事 炉端の会・民具製作技術保存会	588人
	旧船越の舞台	9/22-10/14		国指定重要有形民俗文化財の内部公開 炉端の会	301人
民 家 園 ま つ り	無料開園	11/3	全園		3,192人
	農村歌舞伎	11/3	船越の舞台	秋川歌舞伎あきるの座(東京都無形文化財)	283人
	むかし遊び	11/3	太田家他	民具着用体験・輪投げ・竹馬・機織りなど 民具製作技術保存会	426人
	民技会作品展・頒布会	10/3-11/28	太田、原、鈴木	頒布会は日祝のみ 民具製作技術保存会	頒布会9回
	伝統技術実演	11/3・4	佐々木家他	堂宮彫刻など 伝統技術技法を保存継承する会、日本水引工芸研究会	—
芸 能	人形浄瑠璃	9/23	工藤家	相模人形芝居下中座(国指定重要無形民俗文化財)	57人
緑 地	生田緑地サマーミュージアム	8/5	緑地全体	打ち水・水鉄砲・井戸汲み・蚊帳・民家でごろ寝他	634人

催し物	むかし話	奇数月2回、偶数月3回	作田家ほか	おはなし万華鏡、みちのくむかし語り、大平悦子氏、日本民話の会	1389人
	お茶会	5/3・5・12、10/21、11/4・11	佐々木家	川崎市茶華道協会、静楽会、内田社中・県立川崎北高校茶道部	609人
	おと絵がたり	4/28	作田家	おと絵がたりの会	187人
	むかし遊び	5/5・6	作田家ほか	民具製作技術保存会	700人
	箏語り	4/29	作田家	東風(中しまりん・高井城治)・景山聖子	351人
	和太鼓	5/4	作田家	鼓楽	345人
	三味線	5/5	原家	多摩区文化協会	83人
	お茶作り実演	5/19	岩澤家	炉端の会	90人
	お蚕さまの絹糸	7/1	野原家	繭から絹糸を取り出す、くず繭から糸をずり出す 民具製作技術保存会	118人
	実演「小正月モノヅクリ」	1/13	北村家	まゆ玉団子作りと飾りつけ 民具製作技術保存会	102人
	お月見団子を作ろう	9/29	北村、科学館	お月見団子作り 科学館では月の観望 炉端の会ほか	36人
	笠間市交流事業	9/8・9	太田家他	笠間焼陶器市・観光案内	905人
	南砺市交流事業	10/13・14	野原家他	観光物産展他	877人
	多摩区民祭	10/20	全園	無料開園 骨董市他	7,590人
	実演大工仕事、大工入門	11/18	作田家	昔の大工仕事実演と、大工仕事の体験 神奈川土建川崎多摩支部他	112人
	お正月を遊ぶ	1/4	作田家他	正月遊び、餅つき、獅子舞等 着物で入園無料 三吉野、炉端の会、民技会	814人
	文化財防火デー関連事業	1/26	太田家他	太田家焼損小屋公開と焼損復旧工事映像上映	62人
ガイド	民家解説	第4土曜	園内	1時間で1つの村を案内	300人
	園内ガイド	通年	園内	土・日・祝は午前と午後、平日は午後 炉端の会	1,564人
	団体ガイド	年間	園内	団体の希望に応じ園内をガイド(日本語・英語) 炉端の会	133回
床上公開	毎日	3-5棟	囲炉裏に火を入れ、床上部分を来訪者に公開・解説 炉端の会	119,902人	
民具製作実演	不定期日曜	園内	わら・竹細工、機織り、紙すき 民具製作技術保存会、柄戸忠二	205回	
学校体験学習	年間	園内	大八車・井戸汲み・石臼・天秤棒・背負子の体験 園職員	69校	
学校見学(体験学習なし)	年間	園内		111校	
博物館実習生受入	6月-12月	園内	5回、各10日間	20人	

調査研究・広報・施設管理

研 究 査	移築民家旧所在地調査	山下家・木小屋
	収蔵資料整理	井岡家・太田家・山下家の関係資料、大岡資料(建築)
	刊行物	『収蔵品目録17 旧太田家住宅』『収蔵品目録18 旧山下家住宅』『民家園叢書11 日本民家園草創期の記憶5』
広 報	印刷物	民家園だより、催し物カレンダー、生田緑地催し物パンフ、学校向け優待券、ポストカード
施 設 管 理 維 持	古民家等保存修理工事	野原家・菅原家屋根補修、雨漏り応急処置、壁・建具・敷居・土間三和土などの補修
	園内整備	総合防災整備工事(消火メイン配管(太田家-本館)、防犯設備(園内全域)、耐震診断(太田家・山下家)、耐震補強設計(鈴木・三澤)、植栽整備、倒木・危険木伐採、園路補修、案内板補修・作成など